



ちよだ 生物多様性 活動事例集 -受賞者の活動-

令和6年度

皇居から広がる
生きもの
ネットワーク

.....
自然と共生した
都心のまちを
めざして



生物多様性 とは？

地球上に存在するあらゆる生きものは、互いに生存を助け合いながら複雑に関わり合い、自然の中でそれぞれの役割を持って、一定のバランスで持続する生態系を創りあげています。このようなさまざまな生きものの豊かな個性とつながりを「生物多様性」といいます。私たちの暮らしは、生物多様性がもたらす自然のめぐみによって支えられています。

● 生物多様性 3 つのレベル



1 生態系の多様性
それぞれの地域では、森や草地、池などの多様なタイプの生態系が存在します。

2 種の多様性
一つ一つの生態系には、さまざまな個性を持った多くの種が存在します。

3 遺伝子の多様性
同じ種でも色・形や性質などに違いがあり、多様なタイプの遺伝子が存在します。

いま、生物多様性が 危ない！！

現在、地球上では野生生物の乱獲や生息地の破壊、地球温暖化、人が持ち込んだ外来生物などの影響によって、生きものの減少や絶滅がこれまでになく急速に進んでいます。

このように生物多様性が失われ続けると、生態系のバランスが大きく崩れ、暮らしを支える自然の恵みを持続的に得ることができない仕組みが壊れてしまいます。

危機

1

野生生物の乱獲や 生息地の破壊

開発行為による生きものの生息・生育環境の悪化や、鑑賞、商業利用を目的とした乱獲によって、生きものの数が減少しています。

危機

2

生態系の質の低下

人の手によってバランスが保たれていた里山の森林や農地が、生活様式の変化によって管理されず荒廃し、生きものの生息・生育環境が悪化しています。

危機

3

地球環境の 変化による影響

地球温暖化などの影響による気象の変化で、環境が変化し、生きものの減少や絶滅が急速に進み、生態系が単純になっています。

危機

4

外来種による 生態系のかく乱

自然状態では生息・生育していなかった地域に、人間のさまざまな活動で持ち込まれ、定着した外来生物によって、地域固有の生態系のバランスが崩れてきています。

ちよだ 生物多様性大賞 って何だろう？

「ちよだ生物多様性大賞」は、生きものに優しい活動を表彰することで、生物多様性の保全活動をする意欲を高め、積極的に取り組んでいただくことを目的とした制度です。

ちよだの生きものたちの魅力を改めて感じる事が出来るこの制度は、平成28年度に都内で初めて創設されたユニークな制度です！

● 令和6年度 生物多様性大賞の様子 ●



しらい こう 白井 孝さん	ちよだくりつ 千代田区立 お茶の水小学校	やまざき しゅうせい 山崎 柊星さん	いしだ はるき 石田 晴基さん
目指せ！セミにもヒトにも優しい千代田区	屋上 生物探検隊	北の丸公園のトンボ類分布調査	外ほり公園で昆虫たんさく

● なぜ千代田区で？ ～取り組む意義～ ●

千代田区は、官公庁や大企業が集中する一方で、皇居や日比谷公園等の豊かな自然に恵まれていることが、他にない大きな特徴です。だからこそ、生物多様性を含めた環境との共生が必要であり、2030年までに、千代田区ならではのネイチャーポジティブの実現を目指しています。



現状 官公庁、大企業などが集中し、国内外の環境に大きな影響を与えています。

生物多様性を含めた環境と共生できる経済社会にする必要があります！



現状 皇居には、豊かな自然と生態系が存在します。一方、その他の区内の自然は少なく孤立しています。

皇居の豊かな自然環境を周囲へ広げる取り組みは、千代田区だからできることです！



次のページからは、受賞者の活動を紹介します。
身近な生きものを楽しく観察しながら活動しています。
皆さんもふるって生物多様性大賞にご応募ください！

